

タウンミーティング 会議録

日 時：平成21年11月19日（木） 19:00～20:35

場 所：黒部市民会館（三日市）

テーマ： 1．地域医療体制について
 2．総合交通ネットワークの整備について
 3．新庁舎建設について

参加者：85名

【事務局】

ご苦労さまです。

ご案内の時刻になりましたので、只今から平成21年度黒部市タウンミーティングを開催いたします。

今年も昨年同様に市内の4つの中学校校下ごとに開催することとしておりまして、本日は初日であります。今回のテーマにつきましては、一つ目が、「地域医療体制について」、二つ目が、「総合交通ネットワークの整備について」、三つ目が、「新庁舎建設について」の以上、3つのテーマです。

最初に市長からこのテーマについて、約20分ご説明申し上げます。その後、この3つのテーマについて、会場の皆様方から、順次、ご意見、ご提言をお受けいたします。

なお、終了時間は、8時30分ごろを目処として進めていきたいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

また、先ほど受付でアンケート用紙をお配りいたしました。この場でご発言できなかったご来場の皆様からも自由にご意見をいただきたいと思いますので、日ごろから感じておられることをご記入いただきまして、お帰りの際、受付で回収させていただきますので、よろしくをお願いいたします。

お寄せいただいた意見につきましては、今後、市政運営の参考にさせていただく予定としております。

それでは、堀内市長から、ごあいさつと、テーマに関して基本的な考え方を述べさせていただきます。

【市長】

みなさん、こんばんは。

本日は、お仕事を終えられて大変お疲れのところ、また大変寒くなりました。そういう中で、皆さん方にはお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

また、今回のタウンミーティングの開催にあたりまして、地区自治振興会、あるいは町内会の役員の皆様方には大変ご協力をいただきましたことに対しまして、心から感謝申し上げたいと思います。

今日は3つのテーマについてお話をさせていただきたいと思います。10月には新庁舎の建設についてのタウンミーティングを開催させていただき、沢山の方にお集まりいただいております。今日は若干少ないような気がしますが、その分密度の濃いお話が出来れば

とっております。

さて、新黒部市が誕生して4年目に入っております。また、新黒部市の第1次総合振興計画が策定されスタートしたのが、昨年の4月からでございます。今まで1年半ほど経過したわけですが、ここまでは各重要課題の実現に向け鋭意努めてきたところでありますが、概ね順調に推移してきたものと思っております。

しかし、一方で新政権になりまして、いろんな点で見直しが必要となさそうとしておりますので、そのことによって我々地方行政に及ぼす影響というものがまだまだ不透明であります。そういう点は、大変懸念をいたしておりますが、我々は新政権の動向を注視しながら、総合進行計画で掲げた計画の実現に向けて、これからも精一杯努力するということが大事ではないかというふうに思っているところであります。

それでは、時間も限りがありますので早速テーマについて説明をさせていただきたいと思っております。

詳細については、「課題提起」をご覧ください。

【事務局】

それでは、ただいまから本日のテーマに関して会場の皆様からのご意見やご提言をお受けいたします。係の者がマイクをお渡ししますので、地区名、お名前につき、ご意見等を述べていただきたいと思います。

もう一つお願いがございます。このタウンミーティングでは限られた時間の中でできるだけたくさんの方からご意見をちょうだいしたいと考えておりまして、ご発言はなるべく簡潔に、お一人3分以内でお願いいたします。

それでは、ご発言なされる方、順次挙手のほうをよろしくご願ひいたします。

【Aさん】

こんばんは。私は、前沢の中山間地のところに住んでいるAと申します。

先ほど市長のほうから公共交通網のお話がありましたんですけど、マイバスとかマイレールとかという言葉ですけど、当地区というか、前沢地区というか、そこら辺には昔から交通バスももちろん鉄道も何もありません。それで、マイバスにしてくれとかと言われても、これもまた困ることで、宇奈月のほうは電源開発のほうで否応なしに鉄道が敷かれたと。東布施のほうは地鉄さんがあそこは県のおそらく事情でバスを走らせたんだろうと。最初はそういうような感じでスタートしておるんじゃないかと私は聞いておるんですけども、ところが、そのちょうどあいだの山合いの部分、中山間地とかそういうところにひとつもそういうものがないと、これはちょっとおかしいんじゃないか。その辺に公共交通網のそういった施設ですか、そういうものを走らせるということを考えてみてはもらえませんか。

【市長】

ありがとうございました。

先ほど言いました公共交通の充実につきましては、今年度中に法定協議会を立ち上げて、来年度、試験運行を2カ所程度でできればというふうに思っております。

まず、最初の地区は愛本地区で、地铁の駅までのフィーダー的接続バスをつくりたいというふうに思っています。さらに、今ほど前沢地区の方が発言されましたので、田家、前沢につきましては、ここもやはり公共交通において大変不便を感じておられる方が多いのではないかなというふうに思っておりまして、その田家、前沢地区におけるコミュニティーバスのものを今検討しております。来年度、法定協議会の皆さん方で協議をしていたいて、この田家、前沢地区に対してバス、あるいは乗り合いジャンボタクシー的なものを運行できればなというふうに思います。

そのためには、やはり定時で定路線でいきなり皆さん方の利用が少ないのではないかとしますので、まず登録していただく。利用者の登録、あるいは登録された方が利用するときは予約をする。そのことによって路線を決め、そこでこの公共交通を利用していただきたいというふうに思っておりまして、そのようなことにつきまして今中身を検討しているところでありまして、それを来年度、テスト走行できればいいなというふうに現在考えておるところであります。そういうことにつきましても、それぞれ具体的に説明すると少し時間がかかりますので、そういうことを具体的に検証しておりますので、また皆さん方から意見があれば、そういう意見を踏まえながらやっていきたいというふうに考えておるところであります。

【事務局】

Aさん、よろしいでしょうか。

【Aさん】

ありがとうございます。できるだけ早い実施をお願いします。

【事務局】

ほかにございませんか。

【Bさん】

皆さん、こんばんは。市長さんもどうもご苦労さまでございます。私、前沢のBといたします。

黒部市さんでは今、民主党が財源を握っておるような形でありますけれども、この黒部市のいろんな建物の財源の見直しといたしますか、洗い直しといたしますか、そういうものを今現在やっておられるのですか。また、それをやって無駄な事業をどこまで省いておられるのか、その辺をひとつお聞きしたいと。どうぞよろしく願いいたします。

【市長】

事業仕分けの話がされたのかなと思っておりますが、我々は当然、毎年予算を組むときにももちろん根本的に見直しをしながらこれまでも取り組んでまいりましたし、また、今行っている事業につきましても、すべてではありませんが、市民の代表の皆さん方で行政改革の審議会をつくっていただいております。数十事業の取組に対して、それをこれからどうするのか。ただ減らすだけではなくて、この事業についてはもっと増やしたらどうか、あるいはこのままでいいとか、あるいはこれは削減すべきとか廃止というような中身に

いての検討もいただいていると。そういうものも確認しながら事業を行っているというのが今現在の状況です。事業仕分けという言葉ではやっておりません。

【事務局】

Bさん、よろしいでしょうか。

【Bさん】

はい、わかりました。事業仕分けというともたややくしくなるからこの辺でやめておきます。

【事務局】

ほかにございませんか。

【Cさん】

若栗のCですけど、先ほど交通網のほうで新幹線の黒部駅のほうへ地鉄の駅を持ってくるような話がございましたが、現在、宇奈月のほうへ上がられる数を調べておられると思うんですが、何名ほどおられるのか、1年を通して。

それと、新庁舎に対してですが、多少の貯金はされておると思いますが、大体幾らほどかかって、どれほどの借金をせんらんか、それを教えていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

【市長】

まず、交通網の話をしてますが、宇奈月方面へどれだけの方が利用しておられるかということですか。

【Cさん】

はい。よそさまからいえば、新幹線は通過駅で、たまにとまる電車、そういうような話を聞くもんですから、当然単独で個人的に来られる人が少ないなと私なりに思っております。利用者が少ないにもかかわらず、そこへ何で駅を持ってこんならんかなというような気持ちがあるもんですから。

【市長】

まず、新幹線が新黒部駅にどれぐらいとまるかということ、1日の平均利用者数を2,700人で今想定されております。これは今特急電車などを利用する方々から推移して、1日新幹線駅の乗降客数は2,700人という想定です。私はそれよりも増えるというふうに思っております。それはなぜかといいますと、この新川地域の皆さん方だけの利用ではなくて、滑川とか上市、立山町の方々が例えば関東方面に新幹線で行かれるときに、富山駅から乗るのか黒部駅から乗るのかということをお考えたら、当然、黒部駅のほうが、車で移動されるとすれば、富山駅へ行くのと黒部駅へ行く時間的なことの優位性、あるいは駐車場の整備台数、また、駐車場の料金などから考えれば、当然黒部駅へ来てもらいたい、もらえるような、そういうような計画を立てなければならぬというふうに思っております。

そして、そこで乗り降りされた方々が地鉄をどれだけ利用されるかということについては今現在はわかっておりませんが、先ほどグラフで示したように、宇奈月温泉の利用者数は1日平均600人です。今、電鉄黒部駅は750人ほど1日に利用されますが、先ほどから言うように、そういう鉄道の利用をさらに増やしていかなければ、これからの高齢化社会の公共交通を守っていくために増やすということが大事なことだろうというふうに思っておりますので、地鉄については、私は当然、利用者数が減っているんですが、この間の利用されている方々のデータもとったわけでありましたが、思ったよりは利用しておられます。地鉄がよく空気を運んでおるといふふうに言われる方もおられますが、実際きちんと調査をしたら予想以上に利用されているということがわかってまいりましたので、もう少し利用しやすい、あるいは利用してみたくなるような、そういう鉄道にもっと進化をさせていきたいというふうに思っております。

次に、新庁舎の建設につきまして、財源の話であります。新庁舎を建てるための財源、特定財源といたしましては、新庁舎基金が15億円余り、皆さんの先輩方の努力で積んでいただいております。さらに、新庁舎を建てる時は基本的には自前で建てるしかありません。新庁舎を建てるための補助金等はございませんので、その財源としましては本当は基金以外は一般財源ということになるんですが、今回合併した後の合併特例債、これはあくまでも借金であります。そのうち7割ほどが交付税措置されるということになっておりますので、実質的な負担が3割ということになりましたが、大変有利な起債、借金だというふうに思っておりますので、それが新庁舎建設に充てることが出来ます。ただ、幾らでもというわけにはいきませんので、総務省が示すその起債の基準というものがありまして、その計算からしたら11億円余り合併特例債を庁舎に入れることが出来ます。合わせて26億円余りがこの特定財源として今考えておると。

それなら、新庁舎にどれだけ建設費がかかるかということですが、新庁舎の規模も建設検討委員会でいろいろ議論をいただきました。わかりやすく言うと、建物とすれば8,000平米、あるいは9,000平米、1万平米、大体3通りでビジョンが出された。例えば8,000平米の場合はいろいろな経費も含めて約35億円、1万平米の場合は約40億円ほどかかります。ですから、35億円から40億円ほどの幅で考えて、そして、特定財源が26億円ほどあるわけでありまして、不足するのが9億円から14億円不足します。それを一般財源を充てるといふことであります。この一般財源を、1年間では到底新庁舎は建設できませんので、大体3年程度かかるだろうというふうに思っております。それを3年間で実現するとすれば、9億円から14億円を3年間で平均的にかけたとすれば3億円から、14億円の場合には4億5,000万ほど掛けるということになります。それぐらいの負担なら今の黒部市の力で実現することは十分できるというふうに考えて、新庁舎を建てるのはこのタイミングが最もいいタイミングではないかというふうに考えておるところであります。

【事務局】

Cさん、よろしいですか。

【Cさん】

はい、ありがとうございます。

【事務局】

そのほかはございませんか。

【Dさん】

荻生のDといいます。今おっしゃった4億5,000万円という財源は、個人的な負担に税金としてかかってくるのでしょうか、税金として。

【市長】

今、新庁舎に例えば40億円規模であれば4億5,000万円掛ける3年間の一般財源が要ります。それは一般財源、今の予算の中でそれだけ拠出するということでありますので、新庁舎を建てるために皆様方に特別な負担をお願いするということはありません。

【事務局】

Dさん、よろしいでしょうか。

【Dさん】

もう一度よろしいでしょうか。今の件とはちょっと違いますけれども、僕自身、今回のテーマとはちょっと外れていると思うんですが、ことし8月14日に読売新聞にあった記事ですが、ちょっと気になった点があったもので切り抜いて持ってきたんですけれども、今は全国どこでも平成の合併がありまして、市役所の中で人事機構ですか、そういう中でいろんな係長クラスの人が急に何人も増えたという形で書かれているものですから、そういうのを全国的に調査したということがあるので、富山県ではなかったようですけど、奈良県で特にそういう市町村が多かったと。そういう内容があったものですから、富山県としてなければ本当によろしいんですけれども。

以上です。

【事務局】

ほかにございませんか。

【市長】

遠慮されないで、どんなことでも結構ですので、テーマに関することであればよろしくお話ししたいと思います。

時間がもったいないですから、少し何かお話ししたいと思います。新庁舎の話が出ましたので、先ほど言いました8,000平米、9,000平米、1万平米というのは、あくまでも新庁舎の建設面積です。駐車場はどうかということなんですが、駐車場はどういうふうにするかは別にして、450台程度必要ではないかという想定をしております。それは公用車が40台あるのと、職員も新庁舎で245人勤めるというような想定をしております。245人です。そこから面積をはじいております。その245人のうち通勤で約200台ほどの車が来るのではないかというふうに思います。残りは210台ほどは市民の皆さん方に利用していただけるような駐車場が必要ではないか。合わせて450台ほどが必要ではないかというふうに今考えておるところであります。

何なりとご意見なりご質問があればと思います。

【Eさん】

萩生のEです。

今ほど建物が8,000平米、1万平米と言われるのは、これは延べなんですか。現在の庁舎は延べでどれくらいあるんですか。

【市長】

現在の庁舎は4,000平米です、延べ床面積。ただ、今現在、分庁舎でやっていますから、黒部庁舎が4,000、宇奈月庁舎も約4,000ですから、分庁舎を合わせれば延べ床面積は8,000平米ほど今現在使っております。

【事務局】

Eさん、よろしいですか。

そのほかございませんか。

【Bさん】

今の駐車場の問題もありますけれども、富山県庁さんとかあそこら辺へ行くと、県庁の自前の駐車場に職員がとめておる車が何台ほどおるんですか。

それと、今、黒部市庁舎の駐車場をつくらと言われましたけれども、それは職員の皆さんが半分ほどその駐車場にとまることになるんじゃないですか。県庁はあその施設に来ておられる職員は全部自分で自前で払って駐車しておられるんですよ。そういう方法も考えていただきたいなと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【市長】

450台の駐車場を新たにつくるという話はしておりませんので、それぐらいの台数は必要だというふうに考えております。また、市役所職員は、今現在の庁舎の近くに職員用の駐車場があるんですが、職員駐車場を利用している職員からは月1,000円徴収いたしております。

【事務局】

Bさん、よろしいでしょうか。

【Fさん】

若栗のFですけど、黒部市の地場産業をどういうふうにご考えておられるのか、そして、道の駅が黒部に1つもないというのは。

【市長】

今日のテーマとちょっと離れているのであまり時間をとりたくないんですが、道の駅は1カ所あります。宇奈月地ビール館のところがあれば道の駅になっております。そして、今あそこに地場産の直売所を建設が始まっておりますので、そういう直売所を建設しながら

ら、農家の皆さん方などがつくられた野菜とか、そういう加工品などを販売できるような取り組みを進めております。直売所の完成は今年度いっぱい、来年3月までぐらいには完成できると思っております。

【事務局】

Fさん、よろしいでしょうか。
そのほかございませんか。

【市長】

最初のテーマ、医療関係はございませんか。皆さん方は満足しておられますか。

【Eさん】

何か医療関係でないかと言われるものだから。後期高齢者の医療制度の保険料のことに
ついて、厚生労働大臣はこの制度は3年後に廃止して、4年目の2013年度から新制度に移
すと、こういうふうに言われておるわけですけれども、その保険料は足りないということ
を表明しております。これは新聞にも載っておるわけですけれども、そういうことになっ
ておるけれども、最近の新聞を見ておると、厚労省は現在の保険料を、これは現在のやつ
は2年ごとに見直しするわけなので、第1回目が、これは去年からスタートしておるもん
だから、来年の4月に初めての見直しがあるわけなんです。そこで、厚労省が言っておる
のは、全国平均で10.4%アップすると。これは試算ですけれども、そういうふうは今言っ
ておるわけです。保険料は今までどおり据え置いていただくようにひとつ国のほうへ要望
してもらいたいということをお願いするわけです。国はこのアップに当たって高齢者の負
担を軽くするために国庫から600億円を投入すると、こう言っておるわけですけれども、
私は国が全額負担して私どもの保険料のアップのないようお願いしてもらいたいなと、
こういうふうにしておるわけです。

何でこんなことを言うかという、4年後に新しい保険制度が出発するわけですけれど
も、そのときには上げないというふうに言うておるわけですから、来年4月に上げるとい
うのは一体どういうことだと。これは当然今の制度でいくと保険料が上がるもんだから上
げたいということはわかるんですけれども、4年後に上げるというのなら来年の4月、そ
れからもう2年後にもこの制度が続くと思うんだけど、そのときもとにかく新しい制
度ができましても保険料を上げないようにしてもらいたいと、こういうことを希望するわけ
なので、よろしくお願ひしたいと思います。

【市長】

後期高齢者広域医療連合がありますから、富山県が一体になって連合会をつくってお
りますから、そこを通しながら国のほうに働きをかけていきたいと思ひます。

ただ、上げないというのは、いつに比較して上げないのかということは全く明確に言っ
ておられませんので、今の制度を変えるから上げないのか、今の制度の基準だと、言われ
るように、来年見直しの年です。おそらく少し上がるのではないかとこのように思ひます。
その制度の中でやっていくのか、制度が変わったときに料金を上げないのかどうかにつ
いてもまだわからない点がたくさんありますので、とにかく負担が上がらないように、被保

険者の方は今1割負担ですから、その負担が上がらないようお願いしていきたいと思います。

【Eさん】

国は、新制度になったときに今と比べて上げないということをおっしゃるわけですよ。

【市長】

今のルールだったら国が5割、現役世代が4割、加入者が1割ですから、そのルールどおりだったらまだ必要な財源をいくらもってくるかということになりますので、今の制度からしたらそういうことにはならないので、その辺をどうされるのかは新政権のほうで考えられると思いますが、とにかく負担が上がらないようお願いをしていきたいと思います。

【事務局】

Eさん、よろしいですか。

ほかにございませんか。

【Cさん】

Cですけど、今の保険についてですけど、今、年金のほうから保険が引かれるような形になっておるわね。そうしたら、市のほうの保険の仕事が軽減されたもんですか、それとも今までどおりですか。何か腑に落ちんですわね、私。要は年金の仕事を増やしてやって、そして、要は職員をもっと増やそうかというような気持ちがあるような感じがしているから、ちょっとそこを教えてください。

【市長】

すみません、テーマとちょっと離れているのであまり長く時間はとりたくないんですが、当然75歳以上の方は後期高齢者医療制度へ加入されて、それが県全体として事務を行っておりますから、その分負担が減ったように見えますが、当然、医療連合の応分の負担を黒部市が当然やっておりますので、今までの経費的な負担というものは全く変わらないというふうに考えていただければと思います。

今日のテーマで質問をお願いしたいと思います。

【事務局】

ほかにございませんか。

【市長】

時間がありますので、公共交通、来年度テスト運行を2地区で行いたいと思いますが、先ほども前沢地区の方からご質問が出ましたが、愛本方面の方がおられたら、もし何かご質問なり、ご意見があれば、お聞かせいただければありがたいなと思いますが。

この場で少し恥ずかしいということであれば、いろんな団体の方を通して、とにかく来年度から実験をしたいというふうに思いますので、できるだけ皆さん方の便利で利用して

もらいやすいような、そういうような運行をしたいなと思います。

愛本地区では、そのバスを利用するのに往復で200円程度、今想定をいたしております。田家、前沢地区は少し距離がありますので片道200円程度で運行させていただいて、そして、こういうルートでというようなこともいろいろ考えているんですが、ぜひこういうところにバス停をつくってほしい、例えば市民病院につくってほしいとか、市役所につくってほしいとか、どこどこにつくってほしいとかというようなことがあれば、できるだけのことを今考えてはおるんですが、やっぱり我々職員が気がつかない点多々あるというふうに思いますので、そういうようなこともぜひご意見をいただきたいと思います。

例えば前沢地区といいまして大変広いものですから、例えば前沢地区のあるところまで終点をつくると。終点といいますが、一番奥のほうにしたとしても、そのさらに先にも当然家が何軒もありますから、その方々が1キロも2キロも手前でおろされたらどうするんだというような問題もありますので、全部の家を回れませんので、そういうようなときはどういうふうに対応するのかというようなこともいろいろご意見をいただければ工夫していきたいと思います。

例えば愛本地区でも栗虫をどうするのかというような具体的なところをぜひご意見を。栗虫の方がおられたら失礼なんです、定路線に栗虫まで入れると少し時間がかかり過ぎるというようなこともあったりということの中でそういうところの利用者をどうするのか、それは予約制にしたらどうだと。前もって前日なりに予約していただければ、栗虫まで回ってお迎えするというようなことも考えていけばどうかと。予約制ならできるかなと。前沢地区にもそういうところは考えられますので、こういうところは路線に入らんけれども、予約した場合は近くまでバスが迎えに来ると、そういうようなことを少しみんなで工夫していけばいいので、とにかく回す以上は利用者が増えないと運行することによる負担が非常に大きくなりますので、その辺の工夫をぜひ、まずは利用者の皆さん方と一緒にやっていきたいなというふうに思います。

【Bさん】

前沢のBですけれども、何度も言いますが、今の交通の件ですけれども、週に何回予定されておられるのかと、それと、場所を決めてその時間帯にその場所へ週に何回行くのか。それと、個人が呼べば、毎日いつ何時でも呼べば来るという問題と週を決めて、この日に私のところまでという方法をとられるのか、集まる場所へいつも行けば来るということでもないと思いますが、週に何回ほど予定しておられるのか、その辺のことも考えなきゃいけないんじゃないかなと思います。

例えば、どちらかと言えば布施山地内の中山地区とか、そういうところが、例えば布施山公民館までは地鉄のバスが来ますよと。例えば火曜日に来ますよと。そのときにその人たちが出られん場合は個人で木曜日でも金曜日でもいいのかと、それをひとつお聞きしたいと思います。お願いします。

【市長】

今は週2回、2往復あるいは4往復でどうかなということを今考えております。

それから、今、布施山公民館を言われましたので、布施山公民館はこういう路線に当然考えなければいけない。先ほどちょっと言ったのは、布施山公民館まではいいけれども、

そこからさらに上に住宅がありますから、そこまではなかなか上がれない場合が多い、ただ、予約していただいた場合にはそこまで、中山地区までも上がるというようなことも考えなければ、そこで降りてから2キロも3キロも家まで高齢者の方があそこを上がるということは無理だと思いますので、その辺の工夫もしたいと。ただ、その場合には片道200円と言っているんですが、当然距離も延びますから、今考えておるのはチケット制にしようかなと思っているんですが、その場合はチケット1枚じゃなくて2枚払っていただくという、その辺もこれからぜひそういう具体的なことを想定されているなご意見をいただければ、お互い納得できるような形で運行できるのではないかなというふうに思っております。

【Gさん】

三日市のGです。

ちょっとお聞きしたいんですが、交通ネットワークのことで、コミュニティーバスというと非常に、バスというどうしても大きいイメージがあるんですが、私は、やっぱり最初にやるのは非常に小さいものからでいいんじゃないかと。いずれにしても、利用者の立場からすると、まず、お金が安いということ、それから、頻度が多いということ、それから、できるだけ自分の家の近くで乗りおりできると、この3つが非常に大事なことじゃないかと思うんですが、この場合、まず質問したいんですが、そういうネットをつくる場合にどこかの行政、例えば国土交通省の認可とか許可をとらんといかんと、そういうことはどうなんでしょうか。

【市長】

これは料金をいただきますから許可をいただかなければなりません。

【Gさん】

なぜそういう質問をしたかといいますと、随分昔のことなんですが、フィリピンへ行ったときにジブニーという名称でジープを改良して、それは乗り合いバスとタクシーとちょうど中間ぐらいの交通様式をとられておったわけですよ。それは非常に料金が安いということ、どこでもとまってくれるということ、それと、そういうのが非常にたくさん出ているから非常に乗りやすい、利用しやすいということで、非常に便利だなという印象を持ったのがありますので、そういう形にできるだけ近いものがとれば当然そういう利用者というのは増えるんじゃないかと。特に、市長もおっしゃったように、これから高齢者が増えてくると、そういうことを考えられれば非常に利用者は便利がいいんじゃないかなという気がしますので、そういうようなことをどの程度実際に行政の側として考えておられたか、ちょっとお聞きしたいんですが。

【市長】

今、来年度から行いたいと考えておりますテスト走行では、今、田家、前沢方面には10人乗り程度のワゴン車を考えております。ジャンボタクシーのあの大きさぐらいのことを考えております。

それから、愛本方面はもう少し利用者が多いのではないかという中で、バスといえば地

鉄の50人乗り用の大型が考えられるかもしれませんが、まずはバスでも高齢者の方が中心に乗られるという想定なものだから、どうしても低床でなければいけないのかなというふうに思っております。低床のバスで30人程度以下、29人乗りというのがあるそうなのですが、そういう規模かなというイメージです。ただ、低床となるだけでかなりお値段のほうは上がるようです。普通のバスと比べて低床ということになったらかなり構造的に何か違うようで、お値段のほうは少し高いかな。でも、そういうものを想定しています。

【事務局】

Gさん、よろしいでしょうか。
ほかにございませんか。

【Aさん】

先ほどトップバッターでやりましたAですけれども、今、交通というか、新しいコミュニティバスという運行のことについてですけれども、私、ある程度こういうのが四、五年ほど前に聞かされたんですけれども、ちょっと考えてみたら、あまりおれの生まれ育ったところではそういうところがないんやと思ってちょっと考えておったんですけど、今のところは来年度から実施と、計画的に何かをやっていきたいということだったんですけど、私が思っておったやつは、大体ルートの的には2ルート、田家から布施山までの公民館前まで上がって、それからスーパー農道をおりてきて、山田新方向へ下りて、吉城寺から下りていくという1つのルートと、今度はスーパー農道から布施山とずっと牧場経由で栗寺で降りていくルート、そういうのを2つほど考えておったわけですが、牧場のルートというのはこれは観光客を乗せてもいいんじゃないかなと。あそこの牧場というのは結構今散歩とかいろいろなことで若い人たちも結構上がっております。それに、あそこは乳製品が結構おいしいということで、日曜日とか休み、ゴールデンウィークなんかにはかなり人気の場所となっておりますので、そういうのを平日にしてやれるというのができれば、一種の観光とまで行くかどうかはわかりませんが、それなりの1つの役に立つというのがあるんじゃないかなと思って、私は、そういう2つのルートを考えてちょっと夢を見ておったわけですが、どういうルートにしる、早く実現させてほしいなと思います。

以上です。

【市長】

牧場に行かれる方の市民の皆さん、あるいは観光客のところまでは今の考えとちょっと合わないかもしれません。あくまでもお子さんとか高齢者の皆さん方を対象で今ルートをいろいろ検討しております。また参考にさせていただいて、具体的に栗寺のほうをどうするのかというようなことも言われましたので、当然栗寺のほうの方々もどうするのか、その辺についても検討させていただきたいと思います。

【事務局】

よろしいですか。

【Hさん】

大布施のHです。公共交通のネットワークについてお願いします。

高齢者の方が利用するためと考えているわけですが、地鉄がどういうふうなことに
っているいると違うのか、例えば病院へ行く場合に使う場合とか、あるいはちょっと近く
の銀行へ行く、あるいはショッピングセンターのほうに買い物に行くというようなこと
になると、それまでというのは行き帰りの時間というのが違うと思うんですね。今の
場合、試験的なのということがあると思うんですが、前沢だけでなくほかのところも走
っていないもんですから、最終的にはどこまで、今は試験的なのという話なんです
けど、展望あたりがありましたら聞かせてください。

【市長】

今、具体的に検討しておりますのは、先ほど言いました愛本方面、愛本方面から地鉄
の駅、あるいはJAとか、近くの買い物ができるショッピングセンターとか、そうい
うところを中心に愛本方面で1つのルートを検討しております。それから、今ほど
言いました田家、前沢方面のルートを1つ検討中、それから、生地・前沢循環線、
今現在地鉄のバスが運行されております。その公道ルートを利用しながらもう少し
福祉センターのほうとか、その他市役所のほうとか、そういうルートであれば利
用者が増えるのかなというようなことも考えております。今のところ、3ルート
でとりあえず実証運行ができればいいかなと思います。

来年、愛本はぜひ実現したいなと思いますが、他ルートについては今いろいろ
検討をしておりますので、来年度、テスト走行して、続いて、23年度から3
カ年ほどの計画を立てて実際の実証運行をしたいというふうに考えて
おりますので、テスト運行は何ルートできるか今検討中でありま
すが、23年度からはさっきも言った3ルートで実証運行をしたい
というふうに考えておるところです。そのところに福祉センターなども
今ルートとして考えております。当然市民病院も入っております。

【事務局】

ほかございませんか。

【Iさん】

現在、黒部市というか、黒部市民病院というか、この地域で産婦人科の先生
方の数というのは満たされておるか、参考までに教えていただければと思
いまして、お願いします。

【市長】

産婦人科の先生は、黒部市民病院、今年度当初までは5人おられたん
ですが、1人異動されました。それで、4人になっておりますが、4
人では今の黒部市民病院の状態では足りませんので、1人応援を
いただくことになって、応援の先生が来ておられると思います
から、5人程度、産婦人科の先生がおられます。

そこで、昨年、黒部市民病院でお産をされた方が約600人おられます。
ただ、そのころは荻生にもう一軒民間の婦人科さんがおられました。
今もございまして、お産は2月からやめられました。診察はする
けれども、お産はできないということでやめられたその影響

が、今まで約200人そこでお産しておられたようですから、その200人の方々がどこへ行かれるのか、市民病院へその一部は当然取り込みます。ですから、600人の赤ちゃんが産まれたものが当然増えるだろうというふうに思っております。その中で、荻生の婦人科の先生がおられますが、十分とは言えません。

今現在、新川医療圏、魚津、黒部、入善、朝日で赤ちゃんを産むことができるの黒部市民病院と入善町のあわのさんと2カ所だけです。魚津はゼロ、朝日町もゼロです。その状況からすれば、産婦人科の先生が満たされておるといふふうには決して言えないけれども、全国的に言えば、地方によってはお産をするのに車で2時間ほど行かないとできないという地区がたくさんあります。そういう意味では、この地域は近くで、しかも黒部市民の皆さん方におかれましては地元で赤ちゃんが産めるわけですから、全国的に比べれば満たされているほうではないかなというふうに思っております。

【Iさん】

ありがとうございました。

【事務局】

そのほかございませんか。

【Jさん】

三日市のJと申します。総合交通ネットワークについてお尋ねをいたします。

今現在、市は地方鉄道に対しまして年間どれぐらいの助成金を出しているのか。私、知人から聞いたら800万円程度補助しているというお話でございました。

それと、それに関連いたしまして、地鉄はポートラムとかコミュニティーバスなんかは非常に高い料金を取っていると。黒部から宇奈月まで700円とか、生地までは400円か500円、東布施もそれぐらいの非常に単価が高い、そういう値段で運行されておるわけです。それとコミュニティーバスを並行していく場合、料金面でのどういった考えがあるのか。

それと、もう一つ、最後でございますけど、愛本等については入善町から愛本駅へコミュニティーバスができておるやに聞いたことがあります。入善町は1台1コースだけだと聞いておるんですが、市民病院へもそういった通院を何だったらぜひ入善町のコミュニティーバスで実現してほしいと、そういった要望も増えておるやに聞きました。いずれにいたしましても、1人が乗るのになるだけ単価を安くということであれば、タクシー料金に対する、高齢者じゃなくて身体障害者、そういった人たちに入浴券に相当するような補助金といいますか、パス、年間幾らぐらいか、そういったようなことも検討したらどうかなということでお尋ねをいたしました。

以上です。

【市長】

市が地鉄さんに鉄道の設備改善の補助として、安全運行していただくための補助として年間約800万円ほどだと思っております。それから、地鉄のバスの補助、バスにも補助が出ています。これは生地・前沢循環線、これを運行していただいております。それは1日11本、上り下りがあるんですが、その運行に対する赤字分、細かい計算があるんですが、その計

算をした上で600万円ほど、あの線1本で市が補助をさせていただいております。ですから、合わせれば1,300万円ほど地鉄さんには毎年補助を出しているという状況であります。

さらに、愛本線のところのバスにつきましては、地鉄と並行して走らせる計画はありません。あくまでも地鉄の利用を優先したいと。ですから、ルートとすれば下立の駅とか、あるいは浦山の駅まではそのバスが、先ほど言いましたJAとか、ショッピングセンターとか、浦山の駅とか、下立の駅とか、あるいは石坂医院さん、浦山のほうにありますあそこの病院も大変高齢者の利用者が多いということなので、そういう病院までとか、そういうふうなルートをつくって、例えば黒部市民病院に行かれる方については地鉄を利用していただくということを前提で考えておりますので、料金の比較は一概にできないと思っております。先ほどから言いますように、地鉄を何とかみんなで利用して、これからもあの地鉄の路線が将来にわたって残していけるような、そういうような取り組みをしていきたいというふうにご考えておるところであります。

【事務局】

よろしいでしょうか。

【Jさん】

そういたしますと、従来どおり地鉄、あるいは地鉄のバスの利用者に対する補助金は出ないのかということと、もう一点、そういったコミュニティーバスを運行するに当たって、年間経費が私が聞いたのでは魚津市なんかは1,500万円代、あるいは入善町で600万円、700万円くらいというふう聞いておりますが、市としてはこの予算に対してどういった検討があるのかということもお聞きしたいと思います。

以上でございます。

【市長】

まず、地鉄の料金に対する補助ができないかということについては、これはあまりにも金額が大きくなり過ぎて、その補助はそれは私はできない。結構利用者は多いんですね。前年、黒部で、先ほど言いましたように、1日750人おられますから、それがおそらく高齢者とか学生が多いのではないかと思います。宇奈月温泉の駅でも600人平均おられるわけです。それ掛ける日数というようなことになったら莫大な数字になりますので、それにたとえ幾らかの補助をするということになったらかなり大きな金額になって、それはなかなか難しいかなというふうに思います。

それから、おっしゃるとおり、コミュニティーバスを回すというのはかなり負担が考えられます。県内で一番コミュニティーバスの運行を活発に行っておられるのは射水だと言われておりますが、射水の数字はちょっと持っていませんが、魚津市さんで年間約3,000万円かかっております。コミュニティーバスの運行に対して、収支差し引きして3,000万円補助されているということです。滑川市さんで1,200万円、砺波市さんで4,500万円、これぐらいの補助がされております。ですから、黒部市も今言うような3ルートコミュニティーバス、あるいは乗り合いタクシーみたいなものを回すとすればそれなりの負担が発生するというふうに思っておりますので、やはり利用が増えれば収支は少しでも改善されますので、何とか利用者を増やす工夫をしていきたいというふうに思っております。

【事務局】

よろしいですか。

大変恐れ入りますが、最初にお話しした予定終了時間が近づいております。申しわけございませんが、あとお一人のご発言とさせていただきたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。どなたかいらっしゃいませんか。

おいでになられないようですので、閉会に当たりまして堀内市長から本日お集まりいただきました皆様へのお礼を含めましてごあいさつ申し上げます。

【市長】

長時間にわたって大変ありがとうございます。少しご意見も少なかったようでありますので、ちょっと長目のあいさつをしたいと思います。

まず、病院の件につきましてですが、今のところ、黒部市民病院は皆さん方のほんとうにご理解、ご協力のおかげで県内で唯一黒字病院ということでもありますし、また、お医者さん、特に研修医が今年度も6人募集しましたら今年も100%バッティングという言葉になっていますが、来ていただくことになりました。それだけお医者さんからも黒部市民病院というところは大変高く評価されております。昨年も研修医が100%でありました。県内で2年連続100%というのは黒部市民病院だけです。それだけ若いお医者さんからもやはり黒部市民病院へ行って研究を受けたら大変ためになるということを言われております。それはなぜかということですが、大変医療機器が充実している。あるいは、いろんな患者さん、救急も含めていろんな患者さんが多いものですから、いろんな経験、体験ができる。そしてまた、病院も研修病院に指定されておりますから非常に活気があるということで高く評価をされております。

そういう中でこれまでも経営をやってまいりましたが、もっと将来を考えれば、この市民病院として今やれる間にぜひ大改築をしたいというふうに考えております。建物とか設備だけではございませんが、医療機器が十数億円考えられますので、そういうものを除いて、改築には80億円ほどかかるのかなというふうに思います。これは黒部市の力とすればほんとうに大きな事業だというふうに思っております。そういう中で、やはり市民の皆さん方が安心して病院に行けるよう、そしてまたこの新川地域としてこの中核病院としての役割とか責任を十分将来にわたっても果たせるように、そういう改築をしたい。

改築期間として5年間かかります。5年間かけて、今病院を運営しながらやるということにつきましては、病院の利用者、あるいは見舞いの方々に対しましても大変ご不自由をおかけすることになると思いますが、病院の将来、あるいは黒部市のことを考えていただいて、ぜひご理解、ご協力を賜りたい。特に周辺の方々、天神新、三島町、牧野地区、その周辺の方々のほんとうにご理解、ご協力がなければ大改築はできない。しかも5年間もこの期間がありますから、その点もほんとうにご協力をお願い申し上げたいなと思っております。

また、次の公共交通のネットワークの件であります。これまで、県内でも舟橋村を除いてコミュニティーバスがなかったのは黒部市だけでありました、実は。そこは地鉄などが充実していたものですから、こういうバスのことまでは、しかもバスを回すということは、先ほども言いましたように、これもかなり負担がかかります。ですから、いろんなことを考えてこれまで来たわけではありますが、やはり新幹線の開業を見合い、そしてまた、

高齢化社会の中でやはりやらなきゃいけないということで、来年度から具体的にテスト走行もします。そのためにはやはり皆さん方のいろんな点でご理解と、先ほどから言いますように、利用がないと市の負担が増える。それこそ空バスが走っておりましては大変なことになりますので、何とか利用していただくためには、ですから、オーダーメイドでやります。迎えに来いといたら迎えに行くような、そういうような予約制、登録制あるいはちょっとした工夫でその先まで行ってもらえるような、そういうことまでできればしたいと思っておりますので、今日の間ではなかなかご発言されなかった方もぜひその最寄りの地区におきましては具体的にご意見をいただければ、それに沿った形でやっていきたいというふうに思っております。

最後に、新庁舎の件であります。今日はあまりご発言がなかったんですが、皆さん方のお顔を見ておりましたも、庁舎のことにつきましては大変関心が高いということはよくわかっております。いろいろこの後にご意見を聞きながら、そして、12月の議会でも議会の皆さん方とも議論を重ねると。とにかく今年度中には決定したいというふうに思っておりますので、決定した後にああだこうだと言われても困ります。とにかくまとめなければならぬ。おそらく相当厳しい判断をしなければならぬと思っておりますが、ぜひそのときは皆さん方にはご理解をいただきたいというふうに思っておりますので、新しい黒部市のちょうど大きな転換期を迎える大変大事な時期でありますので、とにかく皆さん方としっかりと意思疎通を図って、信頼関係を持ってこれからもいろんな事業、特に大きな事業が続きますので、進めていきたいというふうに思っております。

ぜひよろしくお願いを申し上げ、閉会のごあいさつにかえさせていただきたいと思えます。今後ともどうかよろしくお願いいいたします。

【事務局】

本日はどうもありがとうございました。会場にお忘れ物のないように、また、お気をつけてお帰りいただきますようよろしくお願いいいたします。

それと、先ほどお配りいたしましたアンケート用紙ですが、会場出口の回収箱へお入れいただきますようよろしくお願いいいたします。

本日はどうもありがとうございました。

了